

藤塚小だより

学校教育目標：生きる力にあふれる子

～「自分らしさを発揮する力」の育成を目指して～

令和5年 1月10日
横浜市立藤塚小学校
学校だより 1月号
TEL (351) 2314
FAX (351) 7349
<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fujizuka/>

あいさつパワーアップを目指して



校長 藤田 陽子

新年あけまして、おめでとうございます。
今年も、どうぞよろしく願いいたします。

新しい年を迎え、すがすがしい表情で児童が登校してきました。新たな年のスタートであるとともに、今年度のまとめとしての3か月の始まりです。気持ちを新たに、一人ひとりが学校生活を、安心して希望をもって再開してほしいと願っております。

さて、先月12月の人権週間では、あいさつについて、児童と一緒にもう一度考える機会をもちました。

児童会スローガン「ふじのはな」の「じ」は『自分からあいさつをしよう』というめあてです。年度の初めから委員会児童によるあいさつ運動は継続してきましたが、10月から12月まで、4年生～6年生の児童を中心に、絆グループ（異学年交流グループ）が一週間ずつ「ふじのはな あいさつ隊」を結成し、次々にあいさつのバトンを渡していきました。登校して来る友だちに、あいさつ隊が明るく元気にあいさつをする姿は、大変気持ちのよいものでした。あいさつ隊の活動を担う児童自身もその気持ちよさを感じ、張り切って取り組む姿が見られました。

一方、年間を通じこのあいさつ活動全般を計画したり、絆グループを巻き込んだりしながら活動を全校に広げようとしてきた委員会の児童たちは、4月からの活動を継続する中で課題も感じていました。それは、「自分たちはあいさつをずっと繰り返してきたけれど、なかなかあいさつが返ってこないことがある。」「あいさつをされたときにはあいさつを返すことはできても、自分からあいさつしようとすることはまだできていない。」ということでした。

委員会児童は、このような気付きや課題を、人権週間の取組を通じ全校児童に劇を通して投げかけました。さらに「あいさつでもっとみんなと仲良くなろう！」という思いを伝えました。こうした委員からの提案が、全クラスのあいさつパワーアップ作戦へとつながっていきました。

日々あいさつを繰り返していても、「いつも」「自分から」あいさつをすることは児童にとって難しいことかもしれません。しかし、委員会児童が提案したように、あいさつは「もっとみんなと仲良くなろう！」とするための大切なコミュニケーションの方法です。だからこそ、そのようなコミュニケーションを目指し、あいさつでつながる気持ちよさやあたたかさを、今年も学校生活の中で積み上げていきたいと思えます。